

(5) 委員の追加意見・要望等

1 キャリア教育の現状と充実策について

若者たちの就職定着度の悪さが社会的問題となっている今、卒業生たちのその後を継続的にフォローし、そこから得た情報を今の学生達のキャリア教育に生かすのが効果的だと考えます。(もっとも、骨の折れる作業ではありますが。)

(黒木委員)

学生の悩みの時期や内容の変化について、きちんと調査されており、納得できました。それを踏まえた支援は的確だと思います。ただ、全体傾向とは別に個人差があるので、注意していただきたい。進路指導窓口を一本化したのは良かったと思います。

(平田委員)

進路指導を担当する教員が進学先・就職先について詳細な情報を持つ努力をし、進路指導に役立てること。現在は先生から情報を取るよりもパンフレットやインターネットで情報を得て学生は進路を決めているのではないか。進路指導の窓口を一本化することは交通整理のうえでは良いが、それ以上のものを期待したい。

中学生を対象とした学校説明会において高専の有する進路の多様性をどのように話すかについて再検討が必要ではないか？

(米山委員)

2 国際交流の現状と推進方策について

学生の海外留学について：現状は学生が自主的に外国に行くを決めれば、それを認めているに過ぎないのではないか？学校として真に国際交流の充実を考えているように学生・保護者の目には映っていないのではなかろうか

(米山委員)

些末なことですが、第2外国語に「ドイツ語」が入っているのに、ちょっと首をかしげました。NHKの語学テキストは、英語以外では1にハンガール、2に中国語、3にイタリア語が売られていて、ドイツ語、ロシア語は存続の危機すらあります。理科系ではドイツ語がまだ生きる局面があるのですね。

(黒木委員)

中国電力学院との交流はすばらしい企画と思います。又、上海の地で国際ビジネスに触れ、経営のわかる技術者となるきっかけになったと思う。留学について受入がASEAN、渡航先が欧米となっているのがバランス的に気になるところです。

(平田委員)

3 JABEEプログラムの改善状況について

学生自身の手によって計画をたてるのは、非常に良い仕組みとと思いました。いかに困難な目標を自らに科すのがポイントなので、先生方からの強制的な力が必要と思います。大きな達成感を経験するために。

(平田委員)

教員の授業に対するPDCAについての説明がなかったが、組織的にきっちりに行っていることが重要。専攻科修了生が有すべき英語その他の学力レベルを決め、きっちりとした成績評価をすること。学生は学校の方針に合わせる傾向にあるように思う。たとえば、TOEIC 400点をJABEEでプログラム修了認定の上での必須条件にすれば、学生はそれをクリアする努力はするであろう。

(米山委員)

これはちょっと専門的すぎて正直よくわかりませんでした。学生一人一人の学力レベルに応じた、きめ細かな指導プログラムということはわかりました。「専攻科」教育とは何か？大学教育と違う特色があるか？など、前提の情報を入れていただくと良かったかも知れません。（黒木委員）

4 その他

去年のテーマだったようですが、「地域との連携」活動について興味を持ちました。工業都市、新居浜にある高専の特色を強くアピールすることが、最大の売り物だと思いました。（黒木委員）

当日の運営諮問会議で中学校部会長代理から厳しい発言があった。「高専は大学とおなじ高等教育機関であるから学生の自主性に委ねる」という考えなどが長年に亘って支配してきたように思う。外部から見れば、15歳から18歳のまだ指導を必要とする年齢の学生を放ったからしにしているように見られても仕方がない。今回の指摘をすべての教員に徹底させて、全教員による日常的な学生指導に努めること。指導強化について保護者に協力を求めることも必要ではないか。（米山委員）